

彦根城の世界遺産登録に必要な推薦書(案)の提出に対する市長コメント

彦根市長、そして、彦根城世界遺産登録推進協議会副会長の田島一成でございます。

この度、彦根市と滋賀県が共同で設置しております「彦根城世界遺産登録推進協議会」は、世界遺産登録に必要な推薦書(案)を文化庁に提出いたします。

彦根城は、1992年に世界遺産暫定一覧表へ記載されて以来、30年以上にわたり、世界遺産登録を目指して歩みを進めてまいりました。彦根城の世界遺産登録は、長年にわたる市民の皆様のご願いであり、地域の大きな悲願であります。

昨年7月11日に4回目となる推薦書(案)を提出しましたが、翌月8月26日、彦根城の推薦書(案)について、文化審議会から課題等が示され、令和7年度の国内における推薦候補としての選定は見送りとなりました。

私たちは、この課題等のご示唆が、彦根城の価値そのものを否定するものではなく、その価値を世界に向けてよりの確に、より説得力をもって示し、世界遺産登録を確実にするための必要な道筋をご提起いただいたものだと思いに受け止めました。

その後、文化庁から懇切丁寧なご指導をいただきながら、私たちは、比較研究や推薦戦略の整理、価値の説明の深化に向け、着実に検討を重ね、推薦内容のさらなる充実に努めてまいりました。

特に、江戸時代の平和な社会を支えた「大名統治システム」という視点について、彦根城が日本の近世城郭の中でも、その価値を具体的かつ良好に示していることを、より分かりやすく、より論理的に示すという点を中心に粘り強く、検討を重ねてまいりました。

この度、こうした取組の成果として、改めて推薦書(案)を取りまとめることができました。ここに至るまで、ご支援をいただきました市民の皆様、関係団体の皆様、そして超党派の議員連盟を立ち上げ、そしてご参加いただきました国会議員の皆様、そして文化庁、学識経験者をはじめとする関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

彦根城は、単に美しい城郭建築を残すだけではなく、江戸時代の平和な社会を支えた政治と統治の仕組みを、現在に伝える極めて貴重な文化遺産です。私たちは、この価値を世界に発信していくことが、地域の誇りを未来へつなぐとともに、江戸時代の日本特有の歴史文化を国際社会へ伝える大きな意義を持つものと考えております。

今回提出いたします推薦書(案)が、文化審議会において早期に審議され、国内推薦へとつながることを強く期待しております。

また、地元自治体の長としましては、今後も、引き続き大切な彦根城の保存・継承と世界遺産登録に向けた取組を着実に進めて参る覚悟でございますので、このことに対する市民の皆様のご理解とご協力も併せてお願いいたします。

令和8年(2026年)5月25日

彦根市長 田島 一成